

令和4年度の主な取組事例 広島県西部建設事務所管内【西ブロック】

1. 広島県の取組状況

(1) 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組

③洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成・周知

県内全ての国及び管理河川において、想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、令和4年9月5日に指定を完了しました。

- 広島県HPから図面(PDF)により閲覧できる。
- 洪水浸水想定区域図はインターネットやスマートフォンで「洪水ポータルひろしま」から確認できる。
- 「洪水ポータルひろしま」では高精度なXRAIN(降雨観測情報)の配信や避難所の位置も確認できる。

洪水ポータルひろしま 検索

▼洪水ポータルひろしまトップ画面【パソコン】

洪水ポータルひろしま

どこからどこへ逃げるかを知る

洪水想定区域図 (マップ) 洪水想定区域図 (一覧表)

【洪水想定区域とは】
洪水時の河川が氾濫し、道路を壊し、又は堤防を崩壊することにより、害による被害の軽減を図るため、当該河川の洪水に関する計画の基となる降雨により当該河川に発生した洪水が浸水される区域(※)を指して示されています。

【洪水浸水想定区域の指定について】 R4.9.5に愛媛川・鞆川について洪水浸水想定区域を指定しました。

【洪水浸水想定区域図の概要について】 R4.4.25に指定された高瀬川・赤三河川及び礪波川(全管理区域)について、洪水浸水想定区域図を公表しました。

【洪水浸水想定区域図の実態について】 R4.6.9に府中

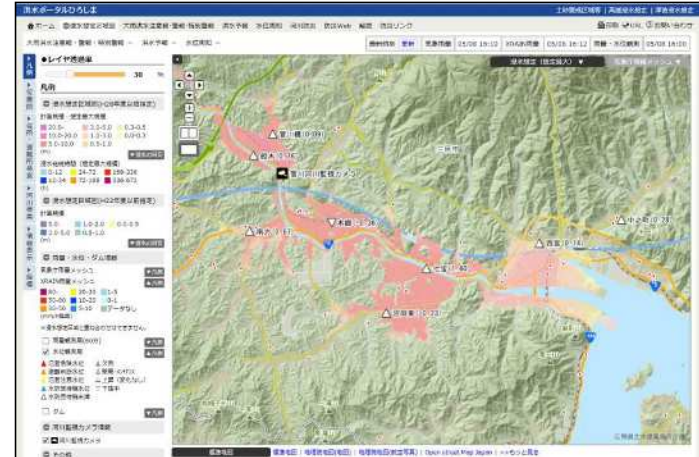
スマートフォン版
洪水ポータルひろしまスマートフォン版
<https://www.kouza.pref.hiroshima.lg.jp/portal/esp/>

警戒レベル	大雨特別警戒 (警戒レベル1相当)	警戒 (警戒レベル2相当)	注意警戒 (警戒レベル3)
浸水種類	-	-	-

洪水に関する警戒レベル相当情報	浸水浸水警戒 (警戒レベル1相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル2相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル3相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル4相当)
警戒レベル	-	-	-	-

水位観測情報	浸水浸水警戒 (警戒レベル1相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル2相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル3相当)	浸水浸水警戒 (警戒レベル4相当)
水位観測情報	-	-	-	-

▼洪水浸水想定区域図 (想定最大)【パソコン】



(1) 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組

③洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成・周知

小・中学校を対象に想定される浸水深や実績の浸水深を示した標識を設置する取組を実施中。

1. まるごとまちごとハザードマップとは

まるごとまちごとハザードマップ

自らが生活する地域の水害の危険性を実感できるよう、居住地域をまるごとハザードマップと見立て、生活空間である“まちなか”に水防災にかかわる以下の情報を標示する取組

- 洪水・内水・高潮の浸水深に関する情報
- 避難行動に関する情報(避難所及び避難誘導に関する情報)

目的

“まちなか”に表示することにより、日常時から水防災への意識を高めるとともに浸水深・避難所等の知識の普及・浸透等を図り、発災時には命を守るための住民の主体的な避難行動を促し、被害を最小限にとどめることを目指す



●洪水・内水・高潮の浸水深に関する情報例



●避難行動に関する情報例(避難所及び避難誘導に関する情報)



(1) 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組

④ 避難確保計画の作成・確認

要配慮者利用施設における「**避難確保計画**」の作成の義務化を踏まえ、各施設における速やかな避難確保計画の作成のための支援を行った。

○要配慮者利用施設（洪水）3,107施設のうち、計画作成済施設は2,857施設（約92%） ※R5.3末現在

講習会プロジェクト



○令和5年1月に安芸高田市で避難確保計画作成の必要性や作成ポイントについて講習会を行った。

作成に向けた資料



○YouTubeでナレーション付き動画も公開している。

【国土交通省 YouTube】



○水害リスク、作成手順など避難確保計画を的確に作成できるよう解説を充実。

【関連ホームページ】（国土交通省）

- ・避難確保計画の作成・活用の手引き
- ・記載様式
- ・チェックリスト 等



<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/jouhou/jieisuibou/bousai-gensai-suibou02.html>

- ・避難確保に関するeラーニング教材【動画】



<https://youtu.be/VtMIyW9Yow4>

- ・避難確保計画の作成・活用のポイント【動画】

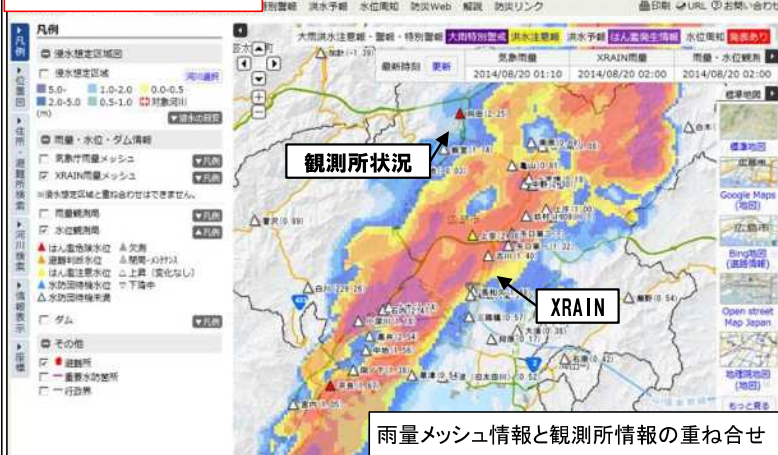


<https://youtu.be/Va400F33ucs>

(1) 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組

水害ハザードマップの周知

洪水ポータルひろしま



雨量メッシュ情報と観測所情報の重ね合せ

- 地理情報システム（Web-GIS）に各種情報を表示しています。水系・河川ごとに「浸水想定区域図」や「浸水継続時間」、「家屋倒壊等」の図面を公表しています。

防災情報の周知

- SNSを通じて防災情報を発信し、県民に向けた防災意識の更なる波及効果を図ります。



避難行動等の周知

- 災害から命を守るために必要な行動の習得を通じ、災害時の「死者ゼロ」を目指すとともに、未来の防災リーダーの育成を目標として、出前講座を開催しました。

(防災出前講座実施件数)

	小学校	中学校等	合計
R元年度	9校	3校	12校
R2年度	5校	1校	6校
R3年度	12校	2校	14校
R4年度	2校	-	2校

(ひろしまマイ・タイムライン作成支援)

	実施校	受講人数
西 西	64校	4,421人
西 東	37校	3,031人
東 部	35校	3,154人
北 部	13校	655人
合 計	149校	11,261人

※ひろしまマイ・タイムラインの作成支援に関しては、小学校を対象に実施したもの。洪水中心ではなく、風水害に対しての出前講座として実施。

(1) 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組

⑦避難行動に資する基盤の整備 簡易型河川監視カメラの設置

既存の水位観測所を設置していない河川のうち、平成30年7月などの豪雨により浸水被害が発生した河川や、人口・資産の集中する河川(水位周知河川等)を中心に設置している。令和4年度には新たに45ヶ所に設置し、現在、123ヶ所で運用している。(CCTVカメラ21ヶ所を含む)

- 国土交通省ホームページ「川の防災情報」にて公開している。
- 引き続き、住民が河川防災情報を入手しやすい環境の整備に努める。

簡易型河川監視カメラ 【設置例】



【画像公開例】 水内川(広島市佐伯区湯来町)



(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

③ 河川管理者等による堤防の点検・監視の実施

県管理河川における危険箇所等について現地の状況を確認し共有しておく必要があり、その対応として、出水期前の堤防点検に併せて、危険箇所等を現地確認することとし、**県と市町が合同で堤防点検をする区間を選定し、当該区間を市町と一緒に現地で確認する。**

○ 令和2年度から、各建設事務所（支所）において、管轄する県管理河川の出水期前点検の実施スケジュールを作成する際、点検する区間の関係市町と合同で実施するよう依頼した。



堤防点検の様子（馬洗川 2022.5.16）

(3) 浸水を早く解消するための排水対策

①排水ポンプ車の運用

排水ポンプ車は、災害時の浸水被害への対策として有効な防災機材であり、市町からの要請により緊急時の広域な応援派遣が可能である。

広島県では西部建設事務所に1台、東部建設事務所2台、三原支所1台配備し、国と県で連携して、排水ポンプ車の全県的な運用を実施。

また、令和5年4月に呉支所へ1台、北部建設事務所へ1台新たに配備した。

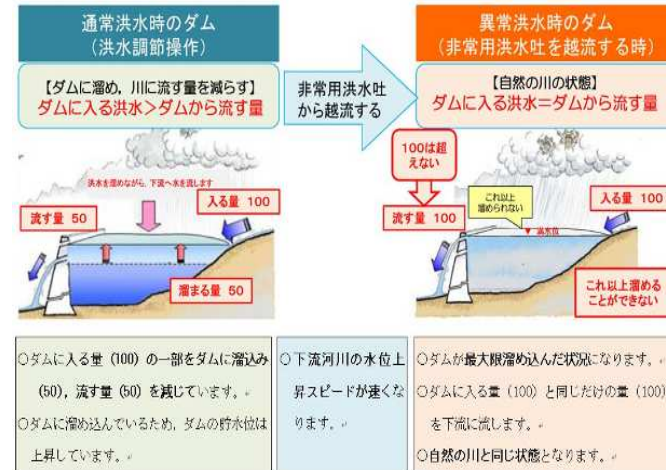
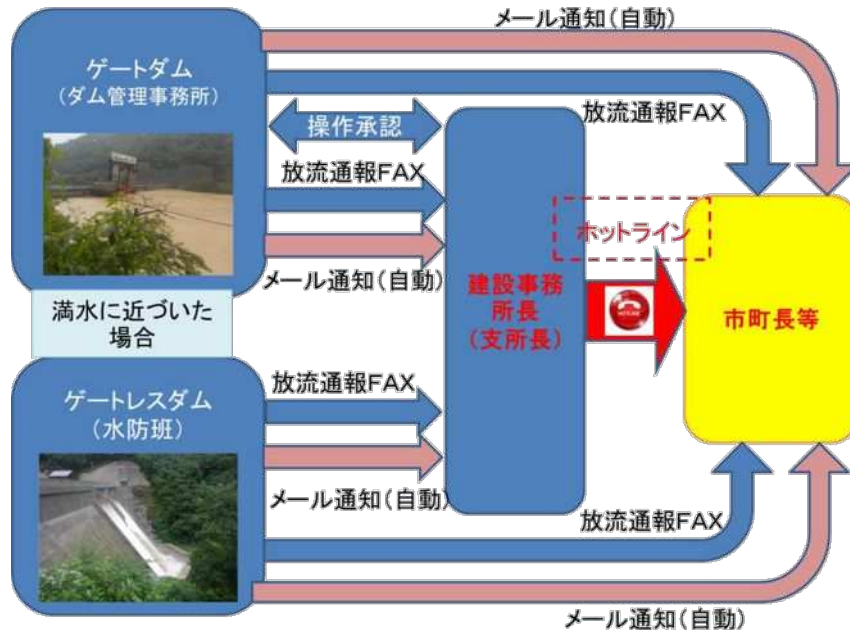


(4) 異常豪雨の頻発化に備えたダム洪水調節機能と情報の充実

② ダム放流情報に関するホットラインの実施

異常洪水時防災操作に関する情報、非常用洪水吐からの越流に関する情報について、**建設事務所(支所)長より市町長等にホットラインを行い、市町長が行う避難勧告等に係る判断を支援する。**

ダム種類	ホットライン元	ホットライン先	協議等	ゲートダム		ゲートレスダム		
				ゲート開け始め等 (各ダムごと)	異常洪水時防災操作		非常用洪水吐からの越流	
					承認時	移行時	1時間前	越流時
ゲートダム	ダム管理事務所長	市町危機管理部署等	変更	○				
	建設事務所・支所長	市町長	新規		○	○		
ゲートレスダム	建設事務所・支所長	市町長	新規			○	○	



ホットラインと合わせて、ダムから**メール通知(自動)**を行うことで、情報伝達の強化を図る。

2. 各構成機関の取組状況

広島市

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施

多様な関係機関、住民等の参加による実践的な水防訓練を実施

訓練名	主体	参加者	参加人数 (規模)	訓練内容	時期
佐伯区水防訓練	広島市	佐伯区役所 佐伯消防署 佐伯消防団 佐伯警察署 各学区自主防災会	130人	防災講話 土のう作成 土のう工法 人命検索救助訓練	R4.6.19

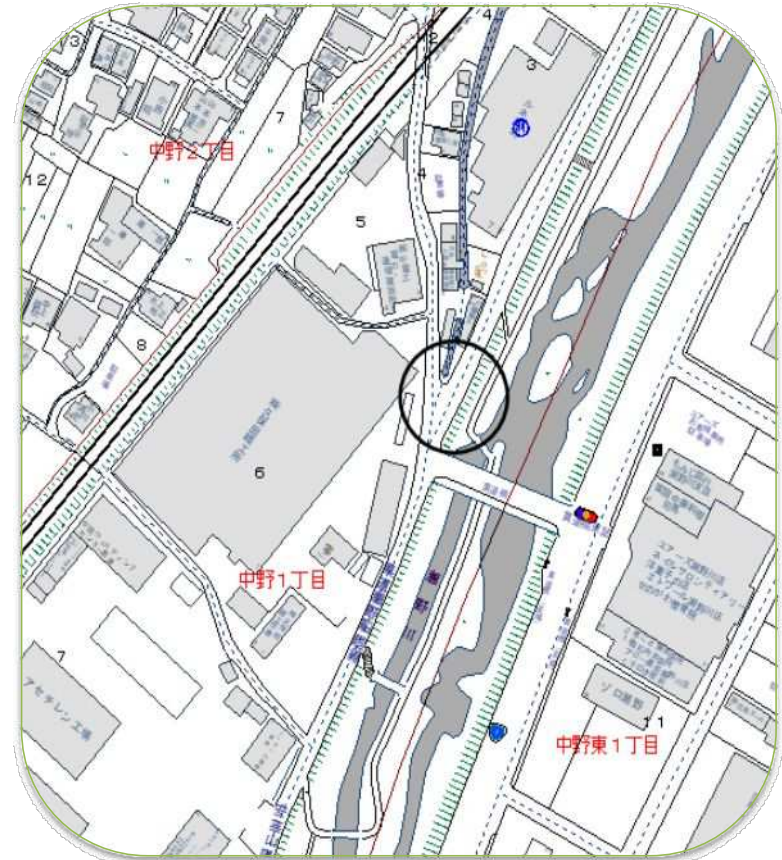


(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

広島市安芸区

②河川管理者等による堤防の点検・監視の実施

瀬野川の貫道樋門等の危険箇所の点検を実施
防災情報の共有のため、区役所・消防・警察が合同で確認を実施



(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

広島市安芸区

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施

毎年出水期前に避難場所や避難経路を確認するなど、住民参加による実践的な避難訓練を実施

訓練名	主体	参加者	参加人数 (規模)	訓練内容	時期
矢野小学校開錠訓練	広島市	区職員 地域住民	30名	避難所の開錠方法及び避難場所の確認	R4.6.5



大 竹 市

- ③洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成・周知
- ④避難計画の作成・確認

想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図や中小河川における洪水浸水想定区域図を基にした水害ハザードマップを作成し、印刷物の配布、ホームページへの掲載等により住民等へ周知
想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図や中小河川における洪水浸水想定区域図に基づき、市町の避難計画を見直し住民等へ周知



大竹市役所窓口配布用チラシ



自主防災組織に
使用方法の解説を実施中
(研修会の例)

- 平成29年度 webハザードマップに移行 (紙版は廃止)
- 令和3年度 県管理河川(玖島川)の洪水ハザードマップを公開開始

【令和4年度の取組】

- 窓口でチラシ配布中
- 自主防災組織を対象にした各種研修会で、webハザードマップ(洪水)使用方法の解説を実施中
- webハザードマップ(洪水)使用方法をHPで公開中

(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

大竹市

① 水防体制の確認・強化

消防団(水防団)員の募集、自主防災組織・企業等の参画を促すための広報を実施

The screenshot shows the '消防団員募集' (Fire and Water Defense Team Recruitment) page on the Otake City website. The page features a navigation menu at the top with categories like Home, Lifestyle, Education, Health, and Business. Below the navigation, there are several sections: '消防団員とは' (What is a Fire and Water Defense Team Member?), '消防団員の処遇' (Treatment of Fire and Water Defense Team Members), and '消防団員のための制度' (System for Fire and Water Defense Team Members). The '消防団員の処遇' section includes a table with columns for '出勤内訳' (Attendance Details), '支給単価' (Unit Price), and '報酬額' (Payment Amount). The '消防団員のための制度' section includes a sub-section for '退職給付金制度' (Retirement Benefit System).

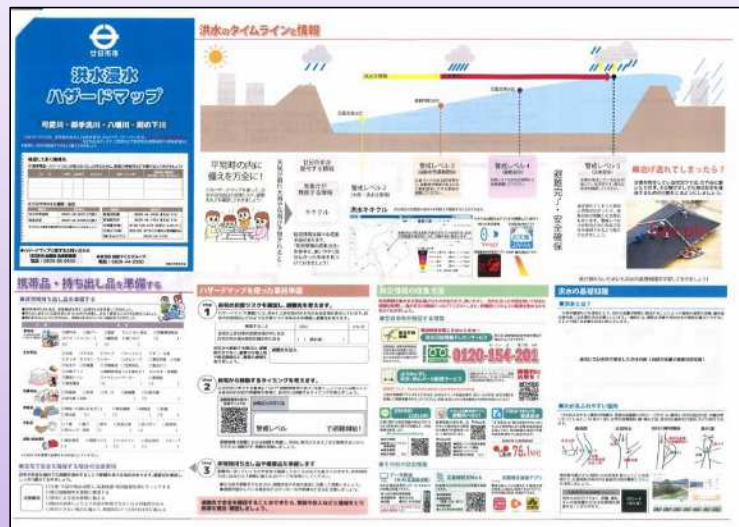
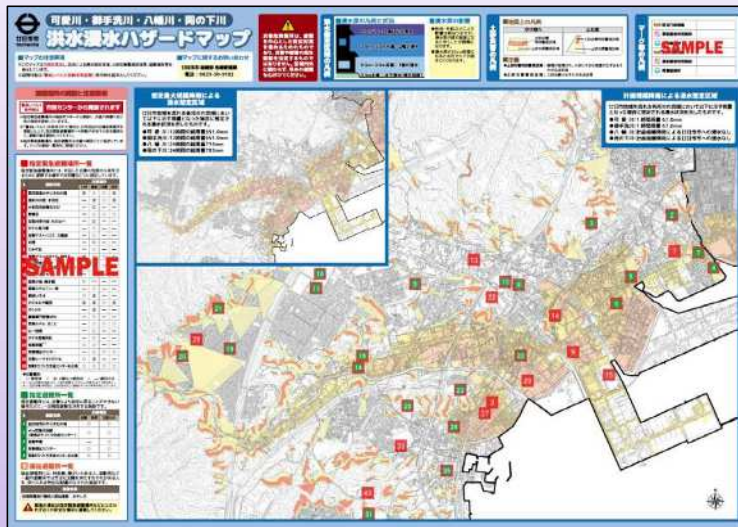
出勤内訳	支給単価	報酬額
出典	1日当たり(5時間以下)	4,000円
出典	1日当たり(5時間超)	8,000円
専任、訓練等	1日当たり	3,500円

HPで消防(水防)団員の募集を実施中

廿日市市

③洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成・周知

永慶寺川、御手洗川、可愛川の計画規模降雨の浸水想定区域の見直し及び想定最大規模降雨の浸水想定区域の指定を受けて、洪水ハザードマップを作成。
同時にWEB版ハザードマップも導入する。
対象区域の市民に配布し、市民の防災意識の向上と避難行動の促進を図る。



○洪水浸水ハザードマップ: 令和4年度(作成中)

(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

廿日市市

① 水防体制の確認・強化

消防団(水防団)員の募集、自主防災組織・企業等の参画を促すための広報を実施



(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

廿日市市

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施

水害対応タイムラインを活用するなど、多様な関係機関、住民等の参加による実践的な水防訓練を実施
毎年出水期前に水害対応タイムラインや水害ハザードマップ等を活用し、避難場所や避難経路及び危険箇所などを確認するなど、住民参加による実践的な避難訓練を実施

訓練名	主体	参加者	参加人数 (規模)	訓練内容	時期
水防訓練	消防署 消防団	消防署員 消防団員	約260名	土嚢作り シート張り工法など	5月～6月

訓練の実施写真等がありましたら、情報提供をお願い致します。

安芸高田市

④避難確保計画の作成・確認

避難確保計画が未作成の施設を対象に、広島県道路河川管理課及び三次河川国道事務所の協力を得て、避難確保計画作成に係る講習会を開催



■本日のスケジュール

時間	講習会内容	担当	時間配分	
			講演	累計
13:30	開会挨拶	安芸高田市 広島県	5分	5分
13:35	1. 講習会の目的とポイント	広島県	3分	8分
13:43	2. 避難確保計画作成の必要性について(動画)		5分	13分
13:53	3. 利用者の命を守る3つのポイント(動画)		10分	23分
13:58	4. 避難確保計画の作成に活用できる資料について (講習会にて配布)	安芸高田市	5分	28分
14:23	5. 各様式の作成方法	安芸高田市	25分	53分
14:28	質疑応答	安芸高田市	5分	58分
14:30	今後の予定	安芸高田市	2分	60分

⑧防災教育や防災知識の普及

自主防災組織等からの派遣依頼による河川防災の出前講座により、洪水時の住民の対応を周知

河川防災の出前講座の開催状況

年度	小学校	中学校	その他
R1	0	0	31
R2	2	0	3
R3	1	0	4
R4	0	0	9



⑧防災教育や防災知識の普及

自主防災組織連絡会及びあなたと地域の避難行動計画づくりセミナーを開催し、「ひろしまマイ・タイムライン」等を活用して、洪水時の住民の対応を周知



ひろしまマイ・タイムラインの作成支援

説明会等	参加人数	その他
R4.6.4	79	
R5.2.19	23	

江田島市

⑥住民の避難行動を支援する防災情報の提供・周知

- ・出水期前(5月～6月)に、市広報誌に避難行動を支援する防災情報を掲載

ひろしま避難誘導アプリ(避難所へGo!)

ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGo!」運用中!

ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGo!」は、災害が発生する前に適切な避難行動を行っていただくための広島広域都市圏内の防災アプリです。避難指示などの発令時、開設中の最寄りの避難所へのルート案内を行います。その他、多言語に対応した各種防災情報の取得や、地図上で現在地の危険度(ハザード情報)などを確認することができます。

平常時は、天気予報や市からのお知らせ、災害への備えとなる情報の確認が行えます。



役立つ防災情報も確認できます!

ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGo!」

使用する際はQRコードを読み込み、アプリケーションをダウンロードしてください。アプリは無料で利用できます。
※アプリ使用に係る通信料は利用者負担となります。

避難所混雑情報可視化システム(バカン)

避難所混雑情報可視化システム VACAN (バカン) /

避難所で混雑状況を入力 | 混雑状況をリアルタイム表示 | 空いている施設を確認 | エリアマップ | 避難所混雑ページ | 一覧ページ

避難所の混雑状況を入力することで即時にマップ上に反映され、避難前に、誰でも簡単に避難先の混雑状況(「満」「混雑」「空」などのおおむね3～4段階で提供)を確認でき、円滑な避難が可能となります。

VACAN →

⑧防災教育や防災知識の普及

小・中学校の防災教育の時間を活用し防災研修を開催した。過去の災害の状況や河川氾濫時の避難行動について、ハザードマップ等を活用して普及啓発を行った。

河川防災の出前講座の開催状況

年度	小学校	中学校
令和4年度	1回	1回



(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

① 水防体制の確認・強化

消防団(水防団)員の募集、企業等の参画を促すための広報を実施

【募集中】江田島市消防団員

公開日 2009年07月01日 (関)消防本部総務課 電話:0823-40-0351

このページを印刷



1 江田島市消防団の紹介

江田島市消防団は、市内全域を管轄し、地域の安全・安心を守るための活動をしています。消防団員は、各自の職業で働きながら、いざ災害が発生したときには、いち早く駆けつけ、火災の消火活動を含め、台風や豪雨による被害を軽減するための活動、年末に行われる各地の特別活動、年制に行われる出初式など、火災予防活動も併行し、地域防災の中核として積極的に活動しています。

2 消防団員の募集について

随時、消防団員を募集しています。入団資格については次のとおりです。

- 1 本市に居住し、または勤務している者
- 2 年齢18歳以上の者

入団を希望される方は、お住まいの地域の分団長または江田島市消防本部総務課(消防団係)までお問合せください。

江田島市消防団・江田島市消防本部総務課消防団係
江田島市江田町門前2丁目17番5号
電話 0823-40-0355



【募集中】消防団応援の店

公開日 2014年01月08日 (関)消防本部総務課 電話:0823-40-0351

このページを印刷

1 消防団応援の店について

「消防団応援の店」とは、地域に貢献する消防団員の確保や福利厚生と、地元商店の活性化を目的として、消防団の魅力をアップと地域の活性化につなげるため、平

成25年12月18日から、江田島市職工会の支援を受け、趣旨に賛同した、飲食店、物販販売店や事業所により、「消防団応援の店」を開始しました。

また、令和4年度から「全国消防団応援の店」への登録を行い、日本全国の消防団員の応援を行っています。

2 内容

登録している商店等は、江田島市消防団員及びその家族に飲食代、焼酎代などの割引サービスなどを提供します。商店等は、「消防団応援の店」シールを表示し、消防団はサービスを受けるため消防団員証を提示します。※サービス内容は、商店等で異なります。

江田島市消防団員証

所属 ○○○分団
氏名 ○○○○
発行日 令和○年○月○日
この者は江田島市消防団員であることを証明する
江田島市消防団長

江田島市消防団員証



「消防団応援の店」シール



「全国消防団応援の店」表示証

3 「消防団応援の店」を募集しています

江田島市消防団では、「消防団応援の店」に登録していただけるお店を随時募集しています。ご不明な点は、江田島市消防本部総務課消防団係まで、お問合せください。

(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

江田島市

④ 消防団による水防訓練等の実施

毎年出水期前に、河川の氾濫や土砂災害に備え水防訓練を実施

訓練名	主体	参加者	参加人数 (規模)	訓練内容	時期
水防活動訓練	消防団	消防団員	39名	土のう作成 土のう積み工法	6月



海 田 町

(1) 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

海田町

④避難計画の作成・確認

津波避難ビルとして下記の施設を指定

避難場所	指定の時期	活用実績
安芸農業協同組合	H25.2.29	なし
創価学会広島安芸文化会館	H26.12.16	なし
ガイナステイツ海田市駅	H28. 8. 1	なし
丸善工業	H29. 3. 16	なし
JR海田市駅NKビル	R1. 8. 7	なし

(1) 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組 海田町

⑧防災教育や防災知識の普及

小中学校等を対象とした河川防災の出前講座、避難訓練等において、水害対応タイムライン、水害ハザードマップや「ひろしまマイ・タイムライン」等を活用して、洪水時の住民の対応を周知

河川防災の出前講座の開催状況

年度	小学校	中学校	その他
R4	海田南		
R4	海田西		

ひろしまマイ・タイムラインの作成支援

説明会等	参加人数	その他
町防災訓練	193	
自治会出前講座	210	



(2) 水防活動の効率化、水防体制の強化

海田町

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施

一部の職員に対して、安芸署と連携をした水防訓練を出水期前に実施した。

訓練名	主体 (協力)	参加者	参加人数 (規模)	訓練内容	時期
水防訓練	役場 (消防署)	職員	30	土のう作成 しがら構築	6月



熊野町

⑧防災教育や防災知識の普及

小中学校等を対象とした河川防災の出前講座、避難訓練等において、水害対応タイムライン、水害ハザードマップや「ひろしまマイ・タイムライン」等を活用して、洪水時の住民の対応を周知

河川防災の出前講座の開催状況

年度	小学校	中学校	その他
R1	0	0	3
R2	1	0	6
R3	4	2	7
R4	10	3	4



熊野第一小学校の避難所体験学習 令和4年5月16日



三次河川国道事務所

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施



令和4年度の出水期を振り返り、防災行動や災害対応の実施状況を確認するとともに、タイムラインの課題や改善策の意見出しを行うことを目的とし、令和4年度第2回検討会を開催しました。

■ R4出水期に関する事前アンケート結果とタイムラインの課題

- 今年度は大きな出水はなかった（レベル0～1の準備段階まで）ため、タイムラインやメール、ポータルサイトの活用場面は少なかった。
- 現状の出水経験では、タイムラインで想定している江の川の破壊氾濫による大規模水害を想定した課題や改善点は出づらひと感じられる。
- 災害対応時にタイムラインやメーリングリストの内容は活用していない、あくまでも参考情報としているなどの意見があった。
- タイムラインはトリガー情報とならない、自機関の行動項目について現在のタイムライン情報のみでは実施の判断に悩む、などの意見があった。

タイムラインの改善と課題解決に向けた検証テーマ

- | | |
|---------------|---|
| ① 準備段階の対応について | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は大きな出水はなかったが、準備段階における各機関の対応や他機関との連携において課題・改善点はないか 他地域出水事例や昨年の三次市・安芸高田市における浸水経験などを踏まえ、大規模水害を想定した準備段階の対応ができていたか検証 |
| ② 連携強化について | <ul style="list-style-type: none"> タイムラインを通して得られる他機関の情報は十分か 参加機関との情報共有をより強化するためにはどうすればよいか 今年度実施したオンライン情報共有（気象台、河川事務所、県、自治体で実施）の有効性やその他の機関の参加について検証 |
| ③ 訓練の必要性について | <ul style="list-style-type: none"> 江の川の破壊による大規模浸水までのイメージができていないか、そのためにタイムラインや多機関との連携を活用できないか 江の川の堤防決壊、外水氾濫発生までの一連の被害を時系列でイメージしながら訓練を実施し、課題や改善点を検証 |

■ 検証テーマに関する意見照会結果

テーマ1：R4出水期における準備段階の対応について、R3出水時の教訓や「最大級の警戒（台風14号）」への特別な対応について



- 回答のあった多くの機関は出水経験や事前に発出された情報、気象台からの「最大級の警戒」の呼びかけを受けて各機関の計画・マニュアルに沿った対応を的確に実施した。
- さらに必要に応じて対応を早める、強化するなどの行動をとっていたことがわかった。

テーマ2：R4出水期に実施したオンライン情報共有の効果と、今後の有効的な実施方法について



- 参加機関からは効果的と感じられる回答が多く得られた。但し、全機関が参加するには会議時間の設定や他河川の会議との調整が課題として挙げられる。
- 一部の非参加機関からは情報共有についての希望が挙げられた。但し、その内容についてどのように伝達するかが課題として挙げられる。

テーマ3：タイムラインの想定シナリオに基づき、平常時から堤防決壊、外水氾濫発生までの被害のイメージと、各段階で発表される気象・防災情報を時系列で整理した動画をを用いた訓練の実施について



- 災害を想定した動画をを用いた訓練の実施については概ね賛成の回答を得られた。但し、訓練の規模や開催方法については参加機関の要望を踏まえて調整をする必要がある。

まとめ

- 今年度は大きな出水はなかったものの、多くの機関が大規模水害に備えた対応を各機関で実施できていたことがわかった。
- 今後は、オンライン情報共有や災害を想定した訓練の実施など、タイムライン参加機関のさらなる連携強化が必要と考えられる。

④ 関係機関が連携した水防訓練等の実施



第2回検討会として実施したタイムライン改善と課題解決のための検証テーマに関するアンケート及び令和5年度版タイムライン策定に向けた意見照会結果の共有を目的とし、令和4年度第3回検討会を開催しました。

■ 意見照会結果の共有（第2回検討会の振り返り）

- 第2回検討会は書面開催とし、参加期間への資料配布と**タイムラインの改善のための検証テーマに関する意見照会**を実施した。

送付資料 ・ 令和4年度 江の川上流水害タイムライン第4回検討会説明資料
 ・ 江の川上流水害タイムライン<令和4年度版案>（詳細版）
 ・ (別紙)江の川上流水害タイムライン第2回検討会 意見照会回答用紙

意見照会 テーマ1～3に関する意見や不明な点について回答を依頼
 令和4年12月23日～令和5年1月16日

〈意見照会結果〉
 ・ 今年度は大きな出水はなかったものの、多くの機関が**大規模水害に備えた対応を各機関で実施できていた**ことがわかった。
 ・ 今後は、オンライン情報共有や実災害を想定した訓練の実施など、**タイムライン参加機関のさらなる連携強化が必要**と考えられる。

その後、令和5年度版タイムラインの作成に向けて、**令和4年度版タイムラインに関する修正・変更について意見照会**を実施した。

送付資料 ・ 江の川上流水害タイムライン（令和4年度版）詳細版

意見照会 各機関の出水期振り返りにより挙げられたご意見・ご要望、その解決策や各機関のマニュアル等との整合性を図った上で、タイムラインを確認・修正
 令和5年1月5日～令和5年2月3日

■ タイムライン令和5年度版（案）について

- 第2回検討会後に行った意見照会結果を反映し、「江の川上流水害タイムライン【詳細版】**令和5年度版（案）**」を策定した。
- 意見紹介結果は**赤字**で反映した。

〈主なタイムラインの修正内容〉
 ✓ 行動項目の修正（項目の統合）
 ✓ 行動項目の追加
 ✓ 役割の追加
 ✓ 役割の取り消し

修正箇所の一部抜粋

項目	実施状況 チェック欄		役割										
	開始時期	終了時期	広島県色部管理課	広島県学芸本部	三次警察署	安芸高田消防署	備北地区消防組合	安芸高田市消防本部	社会福祉法人水明会	広島県建設部河川管理課	広島県北部建設部事務科	広島県北部建設部事務科	
機内体制の構築（連絡体制の構築、全署員参加等も含む）													
連絡体制の構築													
全署員参加													
自治体体制状況の確認													
体制の調整・検討（勤務等以外の協同活動や全署員参加等も含む）													
勤務等以外の協同活動													
全署員参加													
水防勤務の実施（洪水注意報時）													
水防勤務の実施（大雨注意報時）													
水防勤務の実施（大雨警報時）													
一部対象組織の協定													
自治体災害対策本部との連携													
消防団へ出動依頼													

※ 警察3機関の整合性は個別確認し表記を統一

※ 洪水注意報、大雨注意報時にも水防勤務を実施するため行動項目の追加（広島県道路河川管理課）

まとめ ・ 検討会後に各機関で最終確認を行い、**タイムライン令和5年度版を確定**する。出水期前に読み合わせ等の確認を行うことが望ましい。

太田川河川事務所

気象台

⑥ 住民の避難行動を支援する防災情報の提供・周知

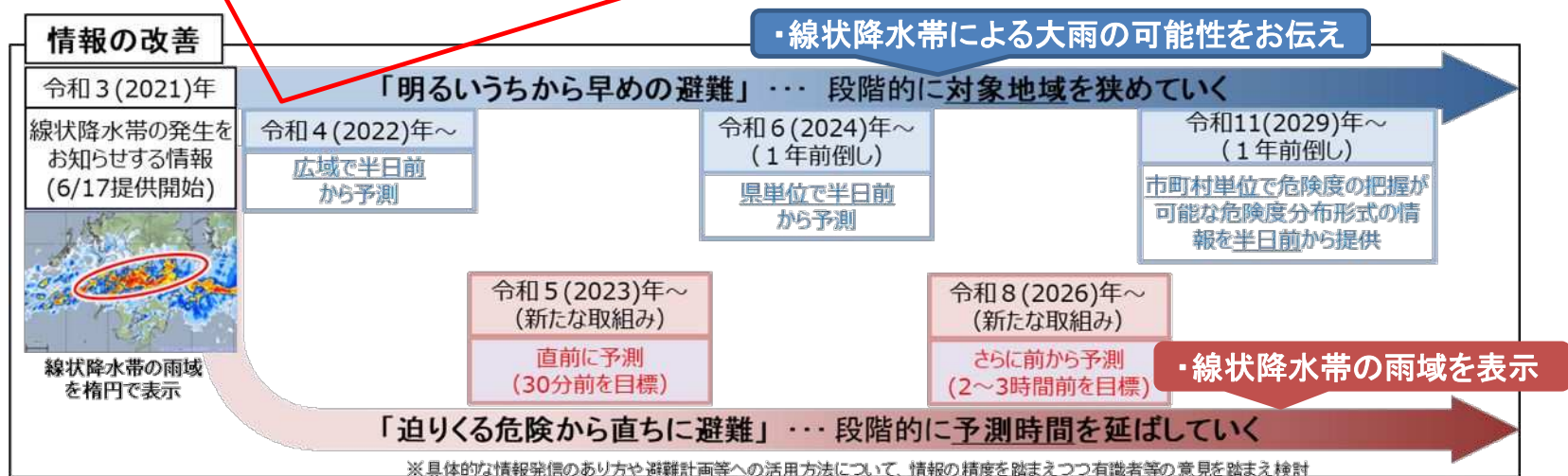
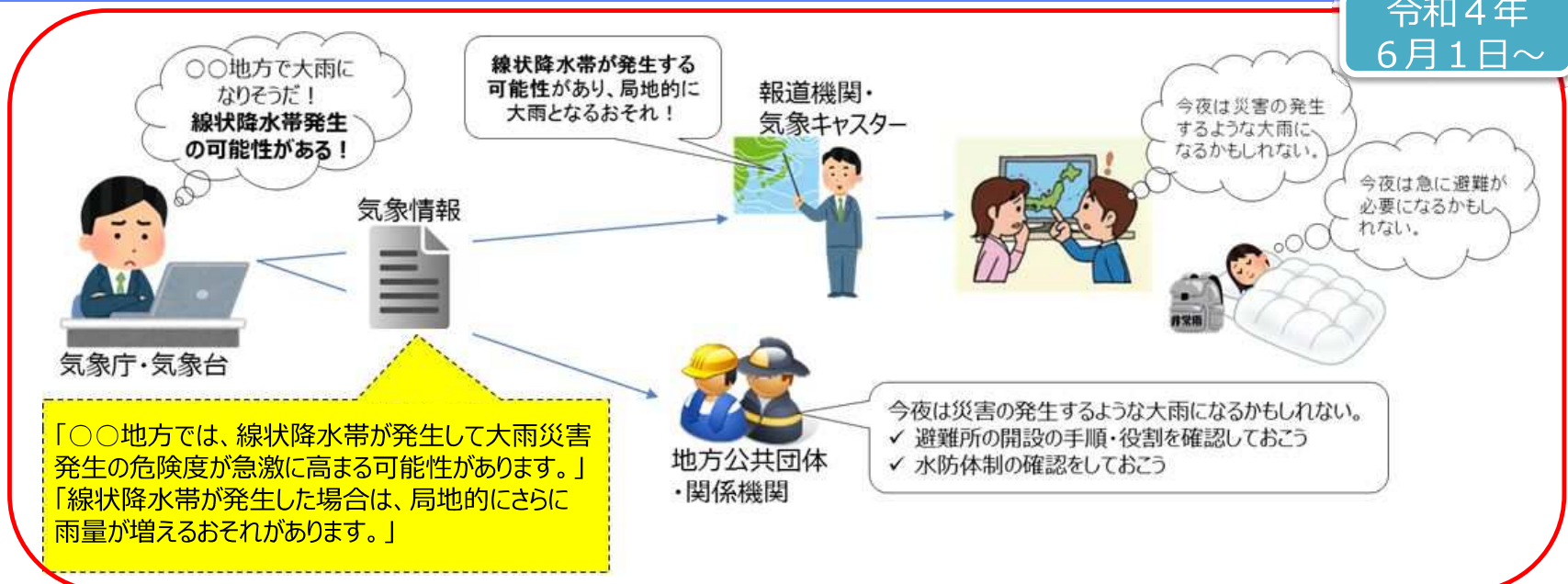
・「防災気象情報の伝え方に関する検討会」の提言を受けた防災気象情報の改善及び提供

令和4年度は以下の事項について実施

- ・ 線状降水帯予測情報提供開始
- ・ キキクル「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合
- ・ 大雨特別警報（浸水害）の指標の改善
- ・ 洪水に関する危険度情報の一体的発信

「線状降水帯」による大雨の可能性を半日程度前からお伝えします

令和4年
6月1日～





警戒レベル4に相当するキキクル（危険度分布）は紫です

キキクルの色	警戒レベル
黒 災害切迫	5相当
紫 危険	4相当
赤 警戒	3相当
黄色 注意	2相当
白(水色) 今後の情報等に留意	-

特別警報基準値超過を「黒」で表示

警戒レベル4の「紫」と一致

これまでのキキクル	
これまでのキキクルの色	警戒レベル
濃い紫	-
うす紫	4相当
赤	3相当
黄色	2相当
白(水色)	-

九州北部豪雨における赤谷川の被害状況
(平成29年7月7日国土地理院撮影)

質問1) キキクル「黒」が表示されていなければ災害は発生しないの？

⇒そうではありません。「黒」は、大雨による災害がすでに発生している可能性が高い状況であり、災害が発生する前にいつも出現するとは限りません。このため、「黒」を待つことなく、「紫」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

質問2) 市町村から発令される避難指示情報とどう違うの？

⇒市町村から避難指示情報が発令された際には速やかに避難行動をとってください。一方で、多くの場合、防災気象情報は自治体が発令する避難指示等よりも先に発表されます。このため、危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当する紫や高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当する赤色が出現した際には、避難指示等が発令されていなくても、自主的に避難の判断をすることが重要です。

大雨特別警報（浸水害）の指標の改善

令和4年
6月30日～

＜改善のポイント＞ 警戒レベル5相当の状況に一層適合させるよう、災害発生との結びつきが強い「指数」を用いて大雨特別警報（浸水害）の新たな基準値を設定。

＜改善前の課題＞

大雨特別警報（浸水害）を発表したが多大な被害までは生じなかった事例が多くみられる（例：平成26年8月の三重県の大雨事例、平成26年9月の北海道の大雨事例、平成29年7月の島根県の大雨事例）。

また、多大な被害が発生したにも関わらず、大雨特別警報（浸水害）の発表に至らなかった事例もみられる。



特別警報の 指標に用いる 基準値	大規模な浸水害を高い確度で適中させるよう指標、基準値を設定	
	中小河川氾濫に起因 する大規模な浸水害を適中させるように 流域雨量指数 の指標、基準値を設定	内水氾濫に起因 する大規模な浸水害を適中させるように 表面雨量指数 の指標、基準値を設定

洪水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。

浸水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。



- ✓ 大雨特別警報（浸水害）の対象地域を大幅に絞り込んだ発表が見込まれる。
- ✓ 島しょ部など狭い地域への発表も可能となる。
- ✓ 警戒レベル5相当の情報としての信頼度を高め、住民や自治体等の防災対応を強力に支援。

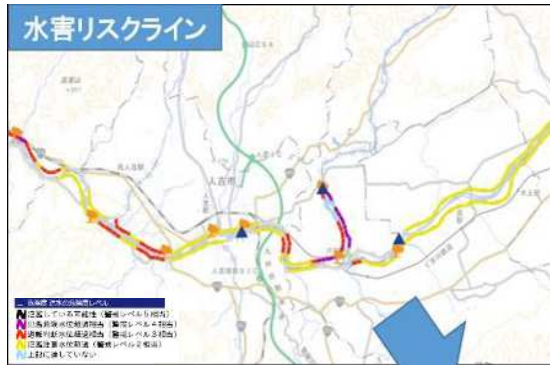
（参考）改善前の大雨特別警報（浸水害）の発表条件

以下の①又は②を満たすと予想され、かつ、さらに雨が降り続くと予想される地域の中で、洪水キキクル又は浸水キキクルで5段階のうち最大の危険度が出現している市町村等に発表。

- ① 長時間指標 48時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km 格子が、ともに50格子以上まとまって出現。
- ② 短時間指標 3時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km 格子が、ともに10格子以上まとまって出現。

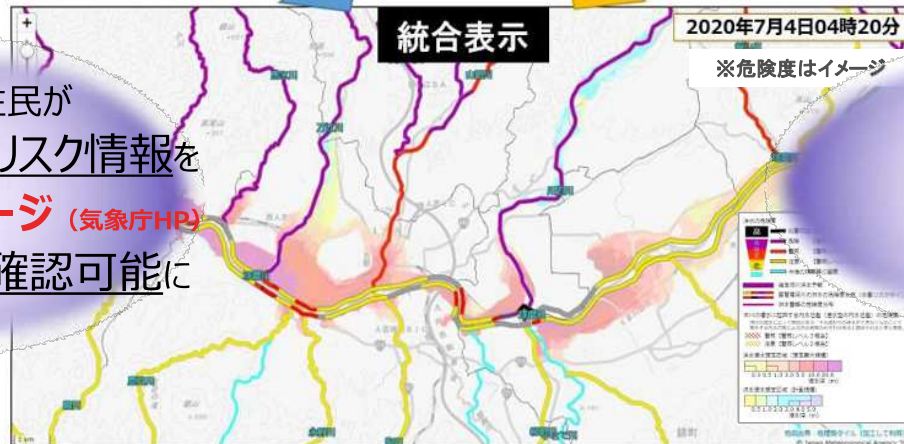
「国管理河川の洪水の危険度分布※」 (水害リスクライン)

※ 大河川のきめ細かな越水・溢水の危険度を伝える



「洪水警報の危険度分布※」 (洪水キキクル)

※ 中小河川の洪水危険度を伝える



自治体・住民が
それぞれの詳細なリスク情報を
洪水キキクルページ (気象庁HP)
でワンストップで確認可能に

令和5年
2月16日
運用開始